中市商店街振興組合

山口県山口市

【助成事業：結人祭およびBeCK fes】

ポイント

舞台は商店街！学生と地域の人々をつなぐ「結人祭（きゅっとさい）」で交流の輪を広げる

周辺に明治維新関連の史跡が数多く残る山口市の中心商店街。人口19万7千人の市で、在住する学生が1万人を超えるという特性に着目した商店街の若手と学生達が連携。アーケード街を舞台に学生と地域の人々が参加して楽しむ「結人祭（きゅっとさい）」を開催した。祭りの副題を“学生と地域の方々をつなぐお祭り”とし、文字通り人と人を結ぶ温かいお祭りを目指した。アカペラやよさこい、パフォーマンスなど100を超える催しで地域の名物イベントに成長、“街づくり維新”の幕を開けた。

商店街情報

所在地：山口県山口市中市町3番3号
地域の人口：192,766人　87,936世帯
（山口市　平成30年3月現在）
商店街の類型：地域型商店街
組合員数：22名
店舗数：39店舗（主な業種構成：飲・食料品、衣料品、日用雑貨、時計・宝飾、飲食・喫茶、サービスなど）
TEL：083-925-5011　FAX：083-925-4444

商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

JR山口駅から県庁方向に徒歩で約7分、270m程の街区に全蓋型アーケードを有する地域型商店街。商業施設の核として県内に二つしかないデパートのうちの一店舗を有するほか、創業200年を超える和菓子屋や時計・宝飾店として県内で一番の売り上げを誇る店があるなど広域的な性格も併せ持ち、隣接する米屋町商店街、駅前通り商店街などとともに山口市の中心商店街を形成している。

当商店街の「中市」という名称は、江戸時代、山陰の萩と山陽道を結び参勤交代や物資の運搬に利用された“萩往還”の要衝にあり、宿場町の市場として栄えてきたことに由来する。戦後は山口市民の生活の拠点として、生鮮や衣料品など幅広い業種により大いに栄えてきた。また、商店街の付近には県庁や市役所等の行政機関、病院、サビエル記念聖堂や美術館、博物館、詩人の中原中也記念館等があるほか、豊富な湯量を誇る湯田温泉も車で数分の距離にあり、市民及び観光客等の集客機能は比較的恵まれた状況にある。

現在の商店街は、駅前通りを挟んで西側に位置する道場門前商店街、西門前商店街の2つの街区と東側に位置する米屋町商店街とともに総延長約700mのアーケード街を形成しているほか、カラー舗装等により快適かつ安全な買い物空間を形成している。また、平成7年には市の助成を得てコミュニティセンター「Nac」を設置、地域住民のコミュニティ活動や商店街事業の中核機能を担うほか、結人祭の準備から演舞等の運営面でも大きな役割を果たしている。

現在、組合員は22名。他の商店街同様店主の高齢化に伴う後継者問題等はあるが、空き店舗が発生しても比較的スムーズに新規店舗が開業しているほか、街区の横の庭園に面する蔵を改造した飲食店や、店頭で調理の実演をする魚屋や珍しいゴマの専門店など、現代的なニーズに応える店舗も増えている。

コミュニティセンターの全景

商店街区にある町屋と蔵をリノベーション。飲食店を軸とする施設をオープンした

助成事業の概要とその成果

当商店街では、従来から「夏の夜市」や「えびす祭り」等の集客・販促イベントを実施してきたが、マンネリ化の傾向が否めず、学生等若者を引き付ける魅力が乏しかった。こうした中で、新たな魅力づくりにつながるイベント等を模索していたところ、市内の学生達からサークル活動等の発表の場が欲しい、との声を聞き、検討の結果、イベントの企画・運営を学生達が担当し、商店街を舞台としたイベント「結人祭：きゅっとさい」等の学生との連携イベントが誕生した。

平成25年度の助成事業では、第1回の「結人祭」と学生によるアカペライベント「Beck Fes」を開催。平成26年度も「結人祭」と「Beck Fes」を開催したが、「結人祭」では参加サークルの拡大や市民のグループの参加などを加えるなど内容をさらに充実させて開催した。

①結人祭（きゅっとさい）

助成事業を活用し、第1回目の「結人祭」を平成25年9月14日の日曜日に開催。“山口に住む人々の心をきゅっと結び、山口を温かいまちにしたい”という思いを込め、また学生たちの発表の場として、商店街を舞台に地域の人々と学生を結ぶ一大イベントを企画した。

当日は、コミュニティセンターなど商店街の3ヶ所にステージを設置。企画段階から参加していた山口大学、山口県立大学のほか学生のネットワークにより下関市立大学や九州看護福祉大学等も参加し、さらに地域の社会人サークル等も加わって約500名の学生や地域の人々がよさこいやダンス、アカペラ、弾き語り、合気道等のパフォーマンス等を披露した。また、地域貢献に励む大学生の日頃の活躍を知ることができる展示ブースなども設置した。商店街では、学生のパフォーマンスに合わせてスタンプラリーやビンゴ大会等を開催し、各店舗への誘客を図った。さらに、夏休み過ぎからの学生たちの準備状況をNHKが放送したことから、商店街とイベントの認知度も向上した。

3会場で迫力あるパフォーマンスを披露する学生たち

②BeCK fes（ベックフェス：アカペラコンサート）

第1回目の「結人祭」に先駆けて8月31日、当商店街と山口大学が連携し、学生のコーラスグループによるアカペライベント「BeCK Fes」を開催。「中国・九州地方をアカペラの輪でつなぐ」との思いで企画した「between中国九州」を省略して“BeCK（ベック）”と名付けたもの。会場の中市コミュニティホールに山口大をはじめ、下関市立大、宮崎大、長崎大など6大学13グループ約70人が出演、来場者約600人が会場に響くハーモニーを楽しんだ。学生からは、「多くの人達に見てもらえて良い刺激となった。他大学のコミカルな演奏や格好良い歌声も聞けて楽しめた。」と満足の声。会場前の広場には商店街が飲食店ブースを出店、街全体で盛り上げて若者の来街を図った。

メインのアカペライベントのほか、おにぎりやパウンドケーキ、やきそば等の飲食ブースを出店

＜助成事業による成果等＞

商店街のアーケード内とコミュニティセンターをイベント会場に、大勢の学生が参加して多くの催し物が演じられ、商店街認知度の向上と地域の活性化等に大きな効果があった。商店街では、学生との連携イベントに合せて商店街で使用できる学割クーポンの発行や、各店舗からの協賛品によるスタンプラリーなどを実施。学生イベントとの相乗効果で来街者と店舗のつながりを強めて一層親近感を持ってもらうことができたと考えている。また、商店街と学生たちとの絆が強くなり、学生たちが商店街の清掃活動等にも参加してもらうなど地域全体での取り組みの基盤が形成されたことが大きな成果である。

助成事業以降の商店街活動

国からの助成を活用してスタートした「結人祭」と「BeCK Fes」は、助成終了後も継続して実施しており、近接する商店街も積極的に参加して独自イベントを同時開催するなど、今や一商店街の枠を超えて地域レベルの事業として定着しつつある。このほか、従来から商店街事業として実施又は協賛しているイベントとして桜祭り、夜市、提灯祭り、えびす祭り、スペインフェスタ等への参加など、毎月何らかのイベントで集客や販売促進を図り、組合員の販売増に力を入れている。

①結人祭及びBec Fesの継続開催

助成事業で第1回を学生サークルの発表の場として始めた「結人祭」は、平成29年度で6回目を迎え、今では45団体が参加、来場者数は4,000人を超え、地域の名物イベントに発展している。学生たちのSNSを駆使した情報発信やネットワークの広さから多数の学生サークルに加え、地域の社会人サークル等も参加。学生と商店街のコラボ企画は反響を呼び、マスコミにも取り上げられたことで広報費の削減につながり、会場設営等も学生たちが制作・装飾することで、商店街独自の予算で実施が可能となった。地域住民からも「今度いつやるの？」「見ていて若いパワーを感じた」「商店街活性化のためにも続けて欲しい」との声があり、毎年9月第3土曜日に継続開催している。

イベント内容も従来の学生たちによるパフォーマンスに加え、来場者より記載してもらった「夢」を集めてひとつのアート作品に仕上げるコーナーやステージでの「はてなボックス」「〇×クイズ」、イベントキャラクターの「きゅっとちゃんを探せ！」など参加型イベントを充実させて100を超える催しものを展開。さらに、近隣の商店街も以前はバラバラに行っていたフェスティバル等をこのイベント日に合せて実施するようになり、中心市街地全体を盛り上げている。

また、大学生によるアカペラコンサートは、山口大学のサークルを中心として、毎月のように商店街区内で継続開催している。

上：会場の飾りつけをつくる学生たち

左：縁日コーナーで遊ぶ子供たち。商店街での買物レシート持参でゲームに参加できる

参加者全員による「きゅっと大パレード」

イベントキャラクター「きゅっとちゃん」

②山口三大まつりへの協力

室町時代から続く山口三大まつり「山口祇園祭」「山口七夕ちょうちんまつり」「山口天神祭」の開催等に協力し、古くからの伝統の継承を商店街が担うなど地域に密着した活動を行っている。

山口七夕ちょうちんまつりは、毎年8月6日、7日の2日間、当商店街など中心商店街とその付近で開催。数千本の竹に吊るされた10万個の赤ちょうちんに家族連れや観光客が火入れし、商店街が艶やかな夜の街となる。夏の山口祇園祭の開催では商店街でも「夜市」を実施。輪投げ、カーリング、射的、ビンゴ等のゲームコーナーを設けるほか、各店舗も営業時間を延長している。11月21日～23日の山口天神祭の神事では、商店街で「えびす祭」を開催。ガラポン抽選会やコミュニティセンターでの生け花展、子供たちへのお菓子プレゼント等で集客を図っている。

山口三大まつり
左：山口七夕ちょうちんまつり
右：山口祇園祭
下：山口天神祭

自治体による活性化支援等

山口市

山口市の主要な商店街は、中市商店街振興組合、道場門前商店街振興組合などJR山口駅に近接する7つの商店街であり、これらが中心市街地を形成している。市では、平成26年4月より第2期の活性化基本計画を進めており、人々の交流による賑わいづくりや地域資源の活用による活力ある中心市街地づくりを進めているが、上記の商店街等は商業及び生活の拠点として重要な役割を果たしている。

山口市は、広域合併により面積は広くなっているが、人口は19万7千人と同規模の市と比較して少な目であり、しかも減少傾向にあることから、商業環境も依然として厳しいものがある。しかし、ここ数年では郊外型のドラッグストア等の進出はあるものの、大型量販店等の進出はなく、こうした点ではやや安定した状況にあるとみている。

これ等を背景として中心市街地の空き店舗もやや減少傾向にあり、地域的には新規出店への意欲は高いものとみている。しかし一方で、商売をやめても店舗を貸す意思がないオーナーや貸せない店舗が増加しており、これへの対策に苦慮している状況がある。

現在、商店街等の活動に対して市が実施している主要な支援策としては、「あきないのまち支援事業費補助金」と銘打って、新規出店者に対し、150万円を上限として必要経費の1／2を補助する制度を設けているほか、商工会議所を通じて商店街が実施するイベント事業等に20万円を上限として支援しており、中市商店街もこうした支援策を活用してもらっている。特に、中市商店街については、結人祭など学生との連携による諸事業を高く評価しており、中心市街地の賑わいの創出など今後の活動にも期待を寄せている。

商店街の今後の戦略

商店街活性化のきっかけは「学生との交流」

昨今の商店街の課題の一つに若者の商店街離れがあるが、当商店街では「結人祭」や「BeCK fes」等で学生の若いエネルギーと情熱をもらい、賑わいの創出につなげている。実際、街と学生との結びつきが強まり、改めて商店街の良さを認識してもらっている。

商店街の戦略としては、人々に街に来てもらうことが第一と考えており、次にイベント等で来てくれた人が街で買い物をしてもらうことにつながることが重要である。イベントが必ずしも売り上げに結びつかないとの声もあるが、これには個々の店の工夫も必要と考えている。組合では、新しいアイディアを取り込むとともにイベント運営を手伝ってくれる人を募り、中市商店街イベントクラブを設けた経緯もある。

学生との連携については、現状の事業をさらに充実させていくこととしており、集客のためには、高齢化社会にあった店づくりも必要と考えている。ゴマの専門店や、蔵を改装したレストランなどが出店しているが、こうした新たな取り組みが必要である。近々、コミュニティセンターの横に公園ができる予定だが、これを活用したイベントやお休み処を作るなど地域に役立つ事業について検討を進めている。

～ 仕掛け人 ～

中市商店街振興組合

副理事長　山田太郎　　事務局長　小田伸夫

取材を通じて明らかになったこと

商店街を含めて地域の活性化のために学生達のアイディアと行動力を活用する手法は多くの地域で試みられているが、継続してこれを展開していくには様々な課題が伴う。地域では少子高齢化、商店街では来街者の減少等の課題を抱える中で、市内に在住する1万人を超える学生は活性化の担い手として、また消費者として極めて貴重な存在である。当商店街では、学生との効果的な連携の中でイベントの企画や運営等を任せて学生が潜在的に有している様々な力を引き出し、イベントの成功につなげている。学生達の"人々のつながりでいい街にしたい"という想いを商店街が受けとめて実現したものであり、若い力を地域社会で活かす格好のケースであろう。